

《朴念仁の黙想録 収録エッセイ：「確率論」》

朴念仁。《完全一人称主義の同時進行型ドキュメンタリーのエッセイを黙想録としてしたため隠し置くという自虐的な趣味》を持っておりませんが、最近はその創作意欲が衰え、隠ぺいしておく意志が弱まり・・・数少ない「崇高な趣味生活」も風化してきております。でも今回の出来事は、将来暇が出来たら考えをさらに熟成させて、黙想録として残すべく創作意欲をうみだす元肥としたく・・・FBPのノートに記録を仮留めしておくことにします。（・・・岩魚ビジネスの進行にさらなる後れをもたらしますが・・・これまでの後れの大きさに比べれば・・・一日ぐらいの後れの追加・・・結構打撃は大きいきいかもネ？・・・でも書きます）

(以上は前置きであります)

.....

- 朴念仁は生まれつき、頭の中の思考・思想・信念などについて疑念を持っています・・・特にそれらが一般の人類の仲間のように素直でないところを。それはつまり「捻くれ者」としての役割を引き受けていることとなります。
- そうした自分の長所(?)を自認するからこそ、《「本当はどうなのサ!」というフィルター回路》がいつも頭の中に組み込まれています。その回路に思考をまわす分、頭の回路の中での判断速力(・・・よく頭の中の血の巡りとして認識されている部分)が遅く、《朴念》然としているわけですね。・・・この診断は、70年にわたる内省的観察に基づくものなので、かなり正確であり、他人には悟られない人格形成の大元であります。
- そんな朴念仁が、大学生になって市場調査を実際に行う仲間に入って・・・統計というものを知って、バイアスとか平均とか・・・正規分布とか、誤差とかいう「評価基準」を身につけて、統計の先生のゼミの門をたたきました。
(門はたたいたけど、《勝手に鎖国主義》の思想に逃げ込んでいた身・・・つまり、英語という《学問的&技術的&生業的武器の習得》を完全に捨てていた朴念仁は、原書が教科書となったゼミの時間には出ずじまい。・・・つまり《統計の勉強すらも放棄した/せざるを得なかった・・・!》んですね。)

だいぶややこしくなってきたけど・・・課題が課題だけに、決論が生まれる前提の説明はやむをえませんぞ!

- 去年の秋から続いている朴念仁の車「運転時の怪事」の連続。ちょっと統計的には歪みすぎているんです。
- 多くの出来事は、因果関係を持たないで起こる場合、ランダムにコトが進むはず。

『なのになぜなのヨ!?!』

(保険詐欺と疑われそう・・・とのメールが先ほど届きましたぞ・・・ヤバシ)

- 自動車免許を取ってからほぼ50年。マイカーを運転し始めてからも48年ほど。昨年の夏までは、《追突》されたことが一度もありませんでした。
(真ん前からぶつかられた《前突》が一回ありましたが・・・それは向こうの完全なよそ見・・・止まって危険を避けている我が車に直行されましたぞ。解決までオオモメにもめた事案ですが・・・第三者機関の現場検証に持ち込んで、完全勝訴に終わり、車を先方の保険会社が元通りに修理してくれました。それまでに約3カ月・・・仕事ができなかったことなどへの補償は、ないもあく大ダメージ！このほかに2度の接触をおこしたことがあり、それぞれ和解・・・以上、自白しておきます。)
- 昨年11月に国道17号線の信号で止まっているときにプロのドライバーが追突してきて・・・《ごめんなさい、自分が100%悪かった。居眠りしてしまいました・・・プロがやってはいけないことです》というのが初回の追突①。
- まだ保険屋と賠償問題が片付かない翌月・・・12月の初めに、大宮バイパスの・・・吉野家の駐車場から出ようとして通過する車を数台見すごし、出かけたところに遅れた車がもう一台きたので、それを見過ごそうと停車しているところ(三車線のいちばん脇の路線に乗り出し中に止まっている状況)の我が車の運転席に、ブレーキ無し(運転士はふんだつもり・・・)で突っ込んできました②。両方の車とも大破・・・先方にはドライブ・レコーダーがついていて、状況確認はある程度可能。深夜の出来事です。
- ぶつかった車ははじけ飛んで、中央分離帯近くまで飛んでゆき、なんとかそこで停車。このときも「ごめんなさい・・・」と、30代の女性。仕事の途中ということです。こちらが国道に乗り出したところだったので、責任の分担では、法律上の判断では多少の責任分担は免れないのでしょうか。でも状況が状況・・・運転手の相互の理解からも明らかに先方の安全運転違反・・・前方不注意でした。警察も、先方の運転手の口述を聞いてメモを取り、朴念仁には「車は動きますか？雨が降っているし、深夜ですから気をつけてお引き取り下さい。こちらの運転手さんは、レッカーが車を引取りにくるまで、警察がお世話します」・・・という現場決着。
この事故は、先方の損害も大きく、こちらの車も廃車確実ではあるけど・・・両者の相談で、賠償請求をお互い放棄することで解決(当方は、事故場所による責任分担は多少でもあるので、翌年の保険料の等級が下がるのが確実・・・保障の見込みがなければ、これを避けるのが得策と、責任追及はやめました)。つまりこちらの車は、最初の事故で保険屋が「残存価値ナシ・・・」と判断し、次の事故では「争ってみても、価値のないものに賠償はありませんよ・・・」とのご託宣。ふたつの事故とも、相手の車の保険会社が○京○上で、これをゆずらないための示談成立です・・・時間や仕事への影響、車を買いかえるための不可欠な費用負担など、保険屋は全く眼中にないんですね。
なお最初の事故の補償問題・・・おおもめにもめる。・・・保険屋は「古い車は初期価格の10%まで・・・他に補償を求めるならば、弁護士を立てること。これが最終判断です」とのことで、仕事も生活も、ズタズタにしたままの終戦宣言です・・・では！と、弁護士を立てて、多少は上乗せをしたけど、上乗せ分は当方の事故の処理事務

をお願いしたところへ払う分で、消えました。ということで、この事故では仕事継続のための車入れ替えで25万円ぐらいの持ち出しになりました。

- 「二回の追突」で、わが愛車（15年物）は完全にお釈迦さま。前の事故についての争いもようやく弁護士同で話し合いがつき、この春の雪解けからは、岩魚プロジェクトを本格的に再開。でも、《半世紀近く追突されていないわが運転の履歴になぜ2回も重ねて追突がおきたのか？》と、禅の問答のようなものが頭に残りました。
- 無作為・ランダムという事象が科学的に研究されていて、そうしたなかでも偶然に偏りが起きるといふことは、確率といふことで理解できます。自分が追突を受ける確率・それは予測できない問題（世の中の全体では、「平均的に何万時間の運転に一回の追突被害がありうる」と計算されているでしょうが・・・）。ましてやどの程度運転すると追突されるか・いつ追突されるのかは、予め予想できません。たまたま・続けて・不運にもといふことか？
ということで、これは不運に過ぎないので、神頼みはせんぞ！「・・・お払いを受けるなんて、まっぴら御免！」・・・八百八神の神々のどの神が追突管理の神様かわかんないし！！
- また、朴念仁は「神を信じない！神なんていない!!」と宣言している手前もあって、お払いに行くといふ行為はできません。でも、捨くれ者とはいえ多少は科学的な思考になじむので、4月から「群馬と東京との間の運転は差し控える」ことにしました。群馬のJR：長野原草津口・最寄り駅前に駐車場を借りて、ここから東京までは、高速バスを利用することに。・・・これはなかなか快適ですよ。車内でPC作業が可能・帰路は新宿からも電車なので、ビールもOKです。ガソリン代とバス代はトントン。
- ということで、群馬～東京間は、大荷物のあるときのみ、車で往復することになりました。そして「大荷物」運搬二回目！・・・「87歳の婆様と84歳の婆様」を運んで、草津温泉にお誘いするといふ《平成のババ様プロジェクト》開催。とても楽しく、ババ様たちにとっても初めての経験がふんだんにはいって・・・特別メニューでした。岩魚の泉も気に入っていただいて・・・《オウエンスルヨ！》の約束もいただけました。
- そしてさらなる特別メニューが。
- 自宅に近づいてきたところでの・・・ドッスン！
なんていふことでしょう！環状八号線の人見街道交差点におりていく陸橋：下り坂で、背後からトヨタの新車が噛みついてきたんですね。
※ ババサマタチ二トツテモコレハハジメテノツイトツケイケン！！
- 人見街道の交差点が赤で、まえの車がみな停止状態・その最後尾につこうとユルユルしているところに・・・けっこうするどい衝撃でした。

(三日前のことで、トラブル処理は現在進行中。「首の状態」など経過を見ているところです。・・朴念仁の首はおカネの面でまわらないだけ丈夫です。ババ様の首が心配ですが・・たくましいババ様たちですから・・大過ないことを祈ります)

➤ さてここからのお話。・・事故についての「おもしろ噺」・・さらにおもしろく続くのですが、本論はむしろ《偶然って、偶然起きるものなのだろうか?・・それとも神様の意地悪の賜物なのか??》の方が本筋です。

➤ 半年に3回の追突を受けた朴念仁。それも、わざわざ追突されるような状況にいたわけではなく(3回ともすべて後続の車の運転技術だけの責任・・まあ朴念仁の存在は存在そのものが悪!との見解もあるでしょうが、朴念仁はその立場に組み込まれませんよ)。

つまり三回も続けて追突を受ける「科学的な因果関係」が見いだせません。確率論からして・・これは《偶然の偏り》だとすると・・だいぶレアなケース・・偏り過ぎているのですね。

「宝くじ買ったら・・」とのアドバイスは、2回事故が続いたときから言われていますが・・今回もまた重ねてそのアドバイスを受けました。

でも朴念仁・・「不信心」であり「統計を学んだもの(マナバナカッタカ!)」であり、「捻くれ者」でもあるために・・今回も《お払いなどは受けんのじゃ!》《宝くじ買ったもし外れたら・・そこでつきがなくなるじゃろうが!》《そもそも追突は、当たったのじゃあなくて当てられたのじゃアガ・・》と、老人特有の「偏屈論」をまき散らしております。

➤ つまり、《捻くれ者は老化すると偏屈者になる》という「真実」だけが、証明されたわけですね・・今回の事件では。多分これは「100%に近い確率での真実(?)」。

.....

ビッグデータ研究では、すでに・・「半年以内に3回の追突を受ける確率」などはすぐに計算できるのでしょうか。でも《その前の48年間にわたって追突されなかった運転手が・・》という条件を付けくわえて計算してもらえると、とても嬉しいですね。その希少性はもしかすると「裏ギネス・ブック」に採用されるかも?

(ちなみに連続三回の追突を受けても、なんの得にもなりませんでしたよ。・・追突って、自分の前にも車があるので・・逃げられません。今回はなんとか玉突き・・押し出されて前の車にぶつかることなく、急ブレーキを踏めたので・・幸いといえば幸いだったのかもしれません。)

結論=《もう いや!》